

(様式1)

自己評価票

作成日 平成28年6月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100896		
法人名	社会福祉法人 克仁会		
事業所名	グループホーム 恵苑	ユニット名	Aユニット
所在地	〒311-1207 茨城県ひたちなか市烏ヶ台11836-1		
自己評価作成日	平成27年12月28日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=rue&JigyosyoCd=0872100896-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年2月24日	評価機関 決 済 日	平成28年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「家庭的な環境と地域住民との交流の下で 安心のある場所でありたい 人と人、心と心のつながりを忘れない」という基本理念に基づき、全職員が共通理解を通して、理念に沿ったケアを目指して仕事に取り組んでいる。入居者を敬う気持ちを忘れずに、本人の意思を尊重した自己選択、自己決定、自己遂行が出来るような対応を心掛けている。認知症の進行や症状の違いに対しても、1人ひとりに合ったケアを提供することを目標にして、職員同士、日々試行錯誤を繰り返しながら対応している。</p> <p>園芸療法や音楽療法、食事のお手伝いや洗濯物たたみ、居室の清掃などの役割を持っていただくことで、現在の状態の維持・向上、認知所の進行防止、さらには生活の中に生きがいや喜びを持っていただけるようにしている。</p> <p>また、地域に根差した施設を目指し、近隣住民の方やボランティア、各種学校など、地域との交流やつながりを大切にしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は地域との交流を大切にし、利用者と職員で自治会の清掃活動や夏祭りに参加するほか、事業所主催の恵苑祭や敬老会に地域住民を招待したり、保育園児や小学生、ボランティアを受け入れ、積極的に交流を図っている。</p> <p>自家菜園ではスイカやトマト、茄子など数種類の作物を栽培し、利用者は収穫を楽しみにしている。</p> <p>居室には法人オリジナルの、利用者の絵や習字、絵手紙などを掲載したカレンダーが配布されており、職員の思いと温もりが感じられる。</p> <p>職員は接遇や安全管理、勉強会開催など、9つの委員会に所属しており、それぞれの分野で活動しながらサービスの質の向上に反映している。</p> <p>協力医療機関と協力歯科医院による訪問診療が月5回あるほか、看取り介護を行う体制も整っており、職員や家族等が不安なく最期が迎えらるよう支援に努めている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境と地域住民との交流の下で「安心のある場所でありたい。人と人、心と心のつながりを忘れない。」を基本理念として事務所カウンター上に掲示し、いつでも見て、確認できるようにしている。また、ネーム裏にも基本理念を入れ、自らのケアが理念に事づいたものであるか、確認できるようにしている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根差した施設を目指し、地域との交流、付き合いを大切にしている。地域の行事に参加したり、施設の行事に住民参加を促したりしている。その他、地域内外の多くのボランティアの方と交流を持っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症については定期的に勉強会や資料にて知識を高め、認知症介護アドバイザーや専門の研修を修了した職員を中心として、本人や家族、地域の方の相談や悩み事に応じている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、自治会長、民生委員、家族代表、市高齢福祉課職員を委員として開催している。入居者状況や行事報告、施設における各対応について報告をし、意見やアドバイスをもらっている。それをケース会議等で職員間で情報を共有し、日々のケアの中に活かしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員でもあり、常日頃より担当者とは連絡を取り、必要時にはアドバイスを受けている。市主催の集団説明会には必ず参加し、必要な情報を得ている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設としては、原則身体拘束は行わない方向であり、現在も対象者はいない。ただし、どうしても必要な場合に備え、勉強会にて知識を高めたり、身体拘束に関する指針、マニュアルを作成し確認を行っている。また、施設内に身体拘束に関する資料を掲示して、いつでも目に入るようにしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料も施設内に掲示しており、職員自身が自分の普段の取り組みを確認できるようにしている。ケース会議に、言葉使いや接し方、対応方法について振り返ることを行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員に、権利擁護や成年後見制度についての話しやアドバイスを受けている。実際に、後見人が付いている入居者もあり、面会時に分からないことや疑問な事は教えて頂いている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、一つひとつを丁寧に説明し、家族がきちんと理解した上で契約を交わせるようにしている。不安な事や疑問に思うことなどは、気軽に問い合わせただけのような声掛けを行っている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内に苦情箱を設置し、希望や要望等があれば入れて頂けるようにしている。年度末には家族アンケートを実施し、家族の声を職員間で共有し、より良いケアにつなげている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回行うケース会議において、入居者についてや業務の内容、職員からの希望や意見を聞き、まとめた内容を上司に報告し、職員の意見を聞いてもらう、知ってもらう機会を作っている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分で考え、取り組み年間管理目標にて、取り組み状況や達成度などを、定期的な面談で確認している。代表者は職員一人ひとりの努力や普段の仕事に対する姿勢を、適切に評価してくれている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を定期的を受け、また法人内での合同勉強会においても、必要な知識と技術を獲得できるようにしている。研修を受けた内容は、全職員に報告した上で、情報の共有を図っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、これまでの経験や様々なネットワークを活用し、職員が同業者と交流する機会を作ってくれている。その交流の中からもたらされたことを、それぞれの仕事に活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の声に耳を傾け、早い段階での信頼関係が築けるように努めている。入所初期は環境の変化で不安や心配事が多いので、職員間で情報を共有し、統一したケアを提供することで、安心して落ち着いて生活できるようにしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の声と共に、家族の困っている事や要望にも耳を傾け、どちらにも良い形のサービスが提供できるようにしている。また、普段より面会時などに話しをすることで、信頼関係作りを行っている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話しをよく聞き、さらにアセスメントした中から必要になっている支援について、適切に把握し、必要な支援が行えるようにしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅生活の延長上にある施設のため、職員は施設内における家族と思って対応している。普段の生活の中においても、共に生活をしている感覚で、寄り添いながら信頼関係を築き、毎日楽しく過ごせるようにしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡や苑だよりなど、常に家族と連絡を取る体制を作っている。行事への参加や外出、外泊を促すことで、本人と家族が一緒に過ごせる時間を確保できるようにしている。そうすることで、本人と家族の関係が良好に保てるようにしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居した後においても、これまでの馴染みの人や場所を大切にしていけるように、家族にも協力をしてもらい対応している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性をきちんと把握し、良好な関係が継続できるように配慮している。入居者同士の間で職員が入って仲を取り持ち、だれもが孤立して寂しい思いをしないで過ごせる支援を心掛けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了したからといって、これまでの関係が終わるということではなく、今後も継続して相談や支援をしていくことを伝えている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当者を中心として、本人の希望や意向を把握している。把握が困難な方には、家族に確認をしながら、本人にとってより良い生活となるような対応を検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで生活してきた環境やリズム、パターン等を本人や家族、関係者より確認し、本人に合った生活がしていけるようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	人それぞれ、過ごし方や心身状態、残存機能等は違うため、一人ひとりに合った形での生活を支援している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、看護師、担当介護員にて三ヶ月ごとにモニタリングを行い、ケアプランの見直しを行っている。面会時に内容を説明したり、郵送時に意見や希望を記入する用紙を一緒に付けて、記入できるようにしてある。また、状況に変化があった時には、随時ケアプランの見直しを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、ケース記録、月間記録表、排泄チェック表、食事・水分チェック表など個別の記録様式があり、職員は必ず目を通したうえで情報を共有し、業務に当たっている。ケース記録は、ケアプランの内容に沿って記入をしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったサービス以外にも、本人の状況や家族の希望などに応じて、可能な限り対応できるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや学生の実習や研修など、多くの方が苑に来てくれる。それが楽しみや生活の張りに繋がっている。また、近隣の保育園児の来苑や、地域の盆踊り大会への参加などを通して、心豊かに生活されている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望、これまでのかかりつけ医との関係を考慮しつつ、協力医療機関と常に連携、協力しながら対応している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の業務は、お互いに協力し合いながら、情報の共有を行い、統一した対応を行っている。健康管理や医療的な処置、医療機関との連携については、看護師を中心として行っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時と退院前には、ナース、家族と共に今後の方向性について話し合いを持ち、情報の共有を行っている。また、定期的に状態確認と、本人の寂しさや不安を少しでも軽減させるため、病院に出向き、ナース等から必要な情報を確認している。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化や看取りに向けた取り組みについて説明している。状態に変化が見られた場合、本人や家族の希望を確認し、施設での対応方法や範囲などについても説明した上で、希望に沿った形で対応している。また、職員間や協力医療機関等においても情報を共有し、統一した対応ができるようにしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や怪我をした時に、適切に対応できる様に、看護師より指導を受けている。また、緊急時マニュアルや応急処置マニュアルを定期的に確認することで、実践力の向上に努めている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、また勉強会においても職員に周知している。定期的に避難訓練を実施するとともに、運営推進会議に参加している自治会長に、災害時の協力と避難訓練等の参加を呼びかけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、性格を理解した上で、人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに、優しい声掛けを心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も職員が決めるのではなく、本人が自分で選び、決定できるような働きかけを行っている。言葉で表せないような方については、ジェスチャーや筆談などを通して、思いや希望の確認を行っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムの把握に努め、可能な限り、本人の希望に沿った形での支援を行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の準備は自分で行なえるように、衣類が汚れたらすぐに交換するようにしている。また、外出時や慰問等のボランティア来苑時は、化粧をしたり、おしゃれをしたりして参加するようにしている。エレガント療法と題して、マニキュアを塗ったり、パックをしたり、眉を書いたりする取り組みも行っている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や食後の後片付け、盛り付けの手伝い等、出来る方は職員と一緒にしている。一人ひとりの嗜好や食形態を把握し、安全に美味しい食事となるように工夫している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、おやつ時に食事量、水分摂取量を確認している。栄養のバランスは、管理栄養士が考えたメニューにて食事を提供している。摂取量が少ない時は、代替品や好む物を用意し、出来るだけ多く摂取してもらえるようにしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。その人の能力にあわせて、一部介助をするなど支援している。月に2回、歯科医師と衛生士の訪問診療があり口腔内の清潔の保持、義歯の状態把握など連携して対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としながら、本人の状況に応じてポータブルトイレを使用したり、オムツを使用したりしている。委員会と各担当者にて、オムツはずしへの検討もしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な運動と、センナ茶飲用にて、自然な排便を促している。それでも便秘がある方には、ナースと連携して下剤等の服用をしてもらっている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する場所や時間帯、順番など、可能な限り本人の希望に沿って入浴を行っている。また、リンゴ湯やゆず湯など、季節感を感じられる工夫もしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望やその日の体調に合わせて、休息や食後横になることは自由である。夜は、事故や怪我がないように、二時間ごとに訪室し、安心して気持ちよく眠れるようにしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、薬剤情報が個人ごとにファイリングしてあり、定期的に確認が出来るようになってきている。服薬介助時には、本人の名前、顔、薬に記入してある名前を声に出して確認した上で、きちんと飲み込むまで確認をしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や残存機能を適切に把握し、食後の食器拭きやタオルたたみ、自室の掃除など役割を持っていただき、日常生活の活性化と出来る事での喜びを味わえるようにしている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外に出られるように、行事等を企画している。本人より希望があった時には、可能な範囲内で、一緒に外出している。家族にも、外出や外泊、面会を促して外に出る機会を作っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則、お金は事務所金庫にて保管しているが、本人希望があれば、家族に了解をもらった上で、少額のみ自己管理してもらっている。また、外出時や買い物の際は、出来るだけ自分で支払いが出来るように支援している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を掛けたり、手紙を出したりすることは自由であり、電話を回してあげたり、手紙を出してあげたり等の支援を行っている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関先には花を飾り、廊下には行事の写真や季節に合わせた作品を提示するなどしている。誰もが使用する共用部分は、常に整理整頓を心掛け、定期的な清掃と消臭対策を行っている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間は、特に制限なく、誰でも自由に使用できる。テレビを見たり、新聞を読んだり。また、入居者同士で会話をしたりしている。食事の際のテーブル配置は、楽しい食事が摂れるように、気の合う方同士を隣り合わせにする等の工夫をしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅の一室と思って使用してほしいとおっしゃるので、本人が自宅で使っていた馴染みの家具や椅子などを持ち込んでもらっている。家族との写真や行事の際の写真を掲示し、楽しかった思い出を忘れないようにしている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は、バリアフリーとなっており、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置している。各居室内は、本人の希望を取り入れながら、さらに安全面にも配慮したベットや家具との配置を行っている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない